

再評価対象事業の概要

平成 19 年 12 月

北陸地方整備局

平成19年度 北陸地方整備局事業評価監視委員会に係る再評価対象事業一覧表（治水：河川事業 1 / 1）

| 番号 | 事業名称 | 区間 | 基本諸元 | 事業採択年度及び経過年次 | 区分 | 進捗状況 完成堤防率 H18末 ----- 実施中の事業 | 社会経済情勢等の変化 | | 費用対効果 | 今後の課題等 | 地元情勢 | 北陸地方整備局 対応方針 (原案) | | |
|----|-------------------------|-----|--|--|----|--|--|------------|------------|--|--------------------------------|---|-----------------------|-----|
| | | | | | | | 過去の主要洪水及び被害状況 | | | | | | 氾濫が想定される 区域内の市町村人口 | |
| | | | | | | | | | | | | | S55 | H12 |
| | 神通川直轄河川改修事業（本川・井田川・熊野川） | 富山市 | <p>本川 管理延長：25.2km 目標流量：7,700m³/s 治水安全度：1/150</p> <p>井田川 管理延長：14.8km 目標流量：1,800m³/s 治水安全度：1/100</p> <p>熊野川 管理延長：5.7km 目標流量：850m³/s 治水安全度：1/100</p> | 昭和54年度 28年 S45.3：河川法第16条に基づき工事実施基本計画を策定 S54.3：河川法第16条に基づき工事実施基本計画を改定 | D | <p>約84% (暫定堤以上整備率)</p> <p>-----</p> <p>弱小堤対策</p> | <p>(神通大橋地点流量)</p> <p>S40. 9洪水 約3,300m³/s (負傷者1名、床下浸水305戸、橋梁流失2箇所)</p> <p>S54. 10洪水 約3,280m³/s (床上浸水36棟、床下浸水2棟、井田川・熊野川において道路決壊等)</p> <p>S58. 9洪水 約5,650m³/s (当時戦後最大) (護岸欠壊等)</p> <p>H11. 6洪水 約3,520m³/s (床上浸水2棟、床下浸水13棟)</p> <p>H16. 10洪水 約6,400m³/s (観測史上最大) (床上浸水25棟、床下浸水141棟)</p> | 41.7 万人 | 44.2 万人 | <p>総便益 (B) 1兆9,326(億円)</p> <p>総費用 (C) 1,957(億円)</p> <p>B/C=9.9</p> | <p>・流下断面不足の解消 ・河岸侵食対策等</p> | <p>事業促進要望 神通川水系改修促進期成同盟会 (1市)</p> | 事業を継続 | |

※ 区分の内訳 A：事業採択後5年間を経過した後も未着工の事業 B：事業採択後10年間が経過している時点で継続中の事業 C：採択前準備計画段階で5年間を経過している事業

D：再評価実施後一定期間経過している事業 E：その他

※ 主要洪水については基準点でのピーク流量を記載

平成19年度 第2回北陸地方整備局事業評価監視委員会 再評価対象事業一覧表（道路事業）

| No. | 事業種別 ※1 | 事業名称 | 箇所名 (起終点) | 事業の概要 | 事業延長 (km) ※2 | 区分 ※3 | 基準年 | 事業化 年度 | 事業をとりまく 社会状況等 | 事業の効果等 | 事業の進捗状況 残事業の内容 | 事業採択時より 再評価実施時までの 周辺環境変化等 | 事業の状況 及び 今後の見通し | 地方公共 団体の意見 | 対応方針 (原案) |
|-----|------------|----------------------|--|--|--------------------|--------------------|---------------------|-------------------|---|---|---|--|--|---|--------------|
| 1 | 1次 | 一般国道 148号 小谷道路 | 起点：長 野県北安 曇郡小谷 村大字北 小谷字穴 平 終点：長 野県北安 曇郡小谷 村大字北 小谷字下 平 | 道路幾何構造上 の問題箇所の解 消や冬期通行障 害の解消などを 目的として、長 野県北安曇郡小 谷村大字北小谷 字穴平～同字下 平の道路（路 肩）拡幅、縦断 線形改良及び片 側歩道整備を行 うものである。 | 4.6 (1.2) | D (前回H14年 度) | H19 | S63 | ・平日交通量は増加傾向に あり、特に大型車交通量の 増加が著しい。 ・大型車の増加に伴い、冬 期通行障害やすれ違いによ る速度低下などの頻度が高 くなることが懸念される。 | ・バス路線の利便性向上 ・特定重要港湾へのアクセス向上 ・総重量25t車両不通区間の解消 ・隣接日常活動圏中心都市間の連 絡時間短縮 ・大型車のすれ違い困難区間の解 消 ・主要な観光地へのアクセス向上 ・二次医療施設へのアクセス向上 ・緊急輸送道路ネットワークで一 次緊急輸送路としての位置づけあ り ・防災点検における要対策箇所の 解消 ・事前通行規制区間、冬期交通障 害区間の解消 ・CO2、NO2、SPMの排出量削減 | <残事業の内容> ・未供用区間 L=1.2kmの整備 (用地買収、工 事) | ・「道の駅小谷」 の開業 ・糸魚川市の合併 (旧糸魚川市、旧 能生町、旧青海 町) | 長野県北安 曇郡小谷村 大字北小谷 字穴平～同 字下平の整 備を推進し ており、用 地買収は平 成19年度の 完了、工事 は平成20年 代中期の供 用を目途 | ・国道148号整備 促進期成同盟会 ・小谷村 早期整備を要望 | 事業継続 |
| | | | | | 用地 着手 年度 | 工事 着手 年度 | 供用済 延長 (km)※4 | 全体 事業費 (億円) | | | | | | | |
| | | | | | H元 | H元 | 3.4 | 225 | | | | | | | |
| | | | | | 事業 進捗率 ※5 | 費用 便益比 B/C※6 | 総便益 (億円) ※7 | 総費用 (億円) ※7 | | | | | | | |
| | | | | | 74.4% (89.6%) | 1.2 (1.3) | 59 (59) | 49 (45) | | | | | | | |

※1. 【事業種別】 高：高規格、地高：地域高規格、1次：一般1次改築、2次：一般2次改築
 ※2. 【事業延長】 上段：総延長、下段：（ ）内書きで事業評価対象延長
 ※3. 【区分】 A：事業採択後5年間を経過した後も未着工の事業 D：再評価実施後一定期間を経過している事業
 B：事業採択後10年間を経過している時点で継続中の事業 E：その他
 C：採択前準備計画段階で5年間を経過している事業

※4. 【供用済延長】 上段：供用済延長、下段：（ ）内書きで暫定供用延長
 ※5. 【事業進捗率】 平成18年度末現在の事業費による進捗率（事業費ベース）
 下段：（ ）用地進捗率
 ※6. 【費用便益比】（総便益）／（総費用）上段：事業全体 下段：（ ）残事業区間
 ※7. 【総費用・総便益】上段：事業全体 下段：（ ）残事業区間